

S S T L

NO. 57 2018. 1. 24

職場参加ニュース

いっしょにはたらいて まちにそよかせ 共に働く街を創るつどい 2017

—就労移行支援・世一緒に託すみんなの経験と意思をつきあわせました



▶ CONTENTS ◀ いっしょにはたらいて まちにそよかせ—共に働く街を創るつどい 2017 報告 1 /共に働く街をめざす自治体提言 2017 4 /職場・地域ひろがりつうしん 5 /会費・寄付納入者 6 /1月~3月カレンダー 7 /すいごカフェ 1/17~2/21 8 /世一緒スタッフ日記 10

いっしょにはたらいて まちにそよかせ

—職場参加をすすめる就労移行支援を切り口に地域共生へのヒント・課題を考える

準備室からの報告

就労移行支援「世一緒」4月に立ち上げます

谷崎恵子さん(当会就労移行支援準備室)

4月から世一緒はせんげん台の新拠点とこれまでの



東越谷の二か所で、就労移行支援事業所となる。小学校入学時から支援学校、普通学校と分けられ、卒業時もさらにA,B、生活介護、そして就労移行と分けられて集められる、そこが社会といえるだろう

うか。世一緒は、社会の中に混ざって生きることに向けての支援を大事にする。スタッフは10年やって来た越谷市障害者就労支援センターの元職員たちや自主事業の世一緒の関係者が主。元々は支援学校の進路指導や障害者職業センターで働いたり、生活支援センターに関わったりしてきたベテランが多い。

就労移行支援は一生に2年間で限度と思い込んでいる人が多いが、必ずしもそうではない。就職してダメだったらまたチャレンジできる。就労移行支援を利用して、生活の立て直しや地域・職場での実習・体験を重ね再チャレンジしてほしい。

先行事例特別報告及びパネルから

一緒に動くスタンスだが都内ゆえの悩みも

深坂桂子さん(NPO法人わくわくかん職員)

わくわくかんの基本理念は、①自己受容を大切に、



自信の回復を②お互い様の気持ちを持って③安心して働き続けることができるように④共に働き、共に生きる社会の実現を。

就労移行支援リポーンプロジェクトは、2007年からの講座方式の事業所と2011年からの模擬企業方式の事業所を2015年に合体させた形で実施している。ただ「訓練してマッチング」ということよりも、とりあえず何か一緒にやってみようかというスタンス。私の知ってることは教えます、だからあなたの知ってることを私に教えてくれませんかという姿勢だ。

越谷で取り組まれている雇用率に該当しない短時間の就労等はとても大事と考えるが、都内は大きな

企業が多いため20~30時間働ける人じゃないと言われる。また問題が起こるとお宅の事業所と言われる。本人を見てほしいと返しているが。そして、都内は求人の7割が事務ないし事務補助なので模擬企業方式でやっている。本人からは事務でなく専門職でという希望もある。ネイルの事業所を回り週1回そこで勉強させてもらったケースもある。

パネリストの発言から

職場参加の活動の母体としての関わり

辻彩子さん(社福つぐみ共生会職員)

当社福を作ったわらじの会は80年代半ばから重度



障害者職業自立協会の事業所づくりにも携わり、越谷市職の活動とつながって市立病院組合事務所での職場実習に取り組んだ。重度障害者が地域で他の人々と共に働く支援策を求め、全県的な運動を進

め、21世紀初めに県が職業開拓推進事業を実施し、その時開拓員になったのがすすめる会事務局に今いる内野さん。越谷では市の事業として地域適応支援事業を立ち上げ、市役所や内野さんが開拓した民間企業の職場に福祉施設等の利用者が実習を行えるようにした。そうした動きが県レベルでは市町村就労支援事業実施につながり、特に越谷市は福祉施設からの職場参加と障害者自身のピアサポートを柱とする就労支援センターを計画した。団体・個人によりNPO法人を設立しセンターを受託する際に、当社福本部から職員を出向させた。

どんな形で職場参加をしてきたか

会沢完さん(くらしセンターべしみ通所)

釣巻青果(べしみの給食食材仕入れ先)では、玉



ねぎの皮むきやジャガイモ、キュウリの袋詰めをさせてもらった。

地域適応支援事業では、イオンのカート整理をやり、顔なじみに会ったり、知り合いができた。二度目の地域適応支援事業では心のアート展で案内係をした。電動車いすの藤崎さんが支援パートナーになり、その支援をべしみ職員がやった。毎週金曜日には駅前や大学前でケアシステムわら細工の介助者募集のビラまきを仕事としてやっている。それを見た焼き鳥屋さんから声がかかり、サンドイッチマンをしたことも。火曜日には

小児医療センター内のお菓子屋マーブルでボランティアで職員向けのお弁当販売をやり共に働くことをアピールしている。

19年勤続の職場が倒産し再就職して

浅井武夫さん(㈱ニューオタニ勤務)

中学卒業後19年間ゴルフ靴の工場で働き、俳優の



石田さんの奥さんや小錦さんの靴なども作った。阪神大震災の後景気が悪くなり、給料が出なくなり倒産した。就職活動の時、障害施設職員をし

ていた妹が就労支援センターと世一緒があるよと教えてくれた。世一緒に来るまでは地域の障害者と交流もなかったが、世一緒に来ていろんな人と出会い、仕事発見ミッションやグループワークや職場体験をした。駐車場管理で再就職したがうまくいかず辞めた。その後現在の靴底加工のニューオタニを紹介してもらい3年近く働いている。おないどして障害のある人がいろいろ話しかけてくれて一緒に卓球バレーをやり、全国大会で和歌山にも行った。職場の帰りに世一緒に寄って相談しながら働いている。

本人の炊飯器でご飯を一緒に炊きたくて

柳沼絵美子さん(特非にじさんぽ職員)

日野のやまぼうしの伊藤理事長が先日就労移行支



援事業について熱く語っていた。障害者を社会や仕事の枠組みに合わせるのではなく成功体験を実感できる機会を得ることで本人自身が変わっていくんだよと。また支援学校高等部を卒業して社会に出ていくということは4年制大学を出た若者が社会に適應できないという現在、とても厳しい。コミュニケーション能力や挨拶は就職してそこで身に付ければいいことで、いろいろな体験を通して人間として成熟するための経験を積むことこそ大切と。

越谷水辺の市に立ち上げから関わっているが、他市の施設で暮らす重度障害の湯浅さんがタクシー、電車を乗り継ぎヘルパーを手配して手伝いに来た。釣銭を渡す担当をして「久しぶりにお金に触ったよ」と語った。その言葉の重み。

私たちは計画相談をやっているが、それをやりたくてやっているのではなく、代表・不破の「利用者自身が持っている炊飯器でご飯を一緒に炊きたい」

への一步。思いを具体化すべく年明け、就労Bと自立訓練(生活訓練)を行うカフェをスタートする。

場をひらく～介護・仕事のシェアを探る

佐藤真知子さん(ワーコレたのしい輪代表)

6人のメンバーと10人のサポーターで生活クラブ



の消費材組合員に渡す仕事と生活館の管理を受託している。6人のメンバーは社長で社員。委託事業なのでメンバーは時給700円で、サポーターは600円。生活館の1階にふら～りという場があり、開

かれた場と位置付けているが組合員以外は来ない。生活クラブ地域協議会で世一緒と知り合い、ここで何か一緒にということでもずはお互いを知ること兼ねて全身性障害者介護人派遣事業からと介護人養成講座に今年度取り組んだ。回を重ねるが顔ぶれが固定化している。ただ毎月会う中で接し方がわかってきたので、次年度は少人数でお出かけしさらに親しくなることを重ね、そこに1人2人と誘っていくようなことを考えている。また、生活館の除草のアルバイトを世一緒にお願ひしたり、支援学校の生徒に清掃をボランティアでやってもらったが、適正な給料とは?生活クラブとの相談も考えている。

コメンテーターから

共に働くことに関わる経済活動は重要

田中克尚さん(越谷市障害福祉課副課長)

4月から障害福祉課にいが「働くこと」は課の業



務の中で大きな比重。また障害をもって共に働くことに関する経済活動は、地域、社会にとって大変大きな比重をもつと考える。これからは勉強し役に立っていきたい。

コーディネーターまとめ

三つの就労移行があると感じた

朝日雅也さん(埼玉県立大学教授)

職場参加をすすめる会が就労移行支援事業を実施



することへ向けての今回のつどい。障害者が就労に移行してゆくことのほかに、職場が共に働く職場に移行してゆく、そして地域が共に働く街に移行してゆく。障害者だけでなくいろんな人を動かしてゆく事業が期

待されていると感じた。



共に働く街をめざす自治体提言 2017

当会では、毎年障害者週間前後に開催する「共に働く街を創るつどい」の終了直後に、近隣自治体に向けた提言を会場で発表し、後日、各首長に直接手渡し、懇談の場をもってきました。今年の提言(骨子)を掲載します。(写真は読み上げのようす)

2017年12月17日

市長

様

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会
代表理事 山崎 泰子

2017年度共に働く街をめざす提言(骨子)

当会の日常の取組と「共に働く街を創るつどい2017」の成果を踏まえ、提言を行います。

記

- ① 2013年の学校教育法施行令改正により、障害のある生徒も地域の学校で共に学ぶことが原則となりました。貴市の就学支援のあり方を、どの子も共に学ぶ原則を支える体制に改革し、共に働き・共に暮らす地域の基礎を固めることが重要です。
- ② 地域共生社会のモデルとして、貴市の職場に障害者を含めさまざまな就労困難者を受け入れ、共に働く経験を蓄積して整理し、市民の共有財産とすることを検討する必要があります。
- ③ 障害者総合支援法や障害者雇用促進法など、共に生きるための支援制度が、半面で人を分け隔てる機能も果たしている現状があります。ADLやIQ、そして就労準備性により分けられた人同士が出会い、一緒に動きながら周りも含めて変わってゆけるよう、地域の職場に多様な形で参加するための環境づくりの施策を、貴市としてさらに具体化することが問われています。
- ④ 前項で述べたように、本人と受け入れ職場等が多様な形で職場参加を具体化できるよう、また福祉サービス事業所や医療施設、関係機関等がそれを手伝いやすいように、本人がサービスを組み合わせて利用することを貴市として支援する必要があります。
- ⑤ 働きづらさ・生きづらさを抱える人々が、共に生きる社会、循環型社会をめざし、共に働き、共に運営する「社会的事業所」や「協同労働の協同組合」をめざす事業活動を貴市として支援するとともに、法制化への取組みを応援するよう提言します。
- ⑥ 上記の事項に関し、貴市において障害福祉計画や障害者計画、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、次世代育成支援行動計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直し時に、反映させられるよう提言します。

職場・地域ひろがりつうしん

●協同労働の協同組合法フォーラム



「協同労働の協同組合」法制定推進フォーラムが11月11日(土)三郷市文化会館で開催され、当会からは障害者達と共に働き、休日は地域の障害者も交えソフトボールや卓球バレーで活躍している(株)ニューオタニの尾谷社長が報告しました。

●わくわくかんへの見学交流デイツアー

11月28日、16名で東京都北区にあるNPO法人わ



くわくかんを訪問。最初に見学した就労移行支援事業所では、机の配置など会社を想定したつくりで、一般就労に向け取り組んでいた。午後見学した就労継続支援A型は、働く場所とか訓練をする場所というだけでなく、地域に必要とされる配食サービスという仕事を各自がやりがいをもって取り組んでいるという姿が印象的。ていねいに対応していただき感謝します。

●産業フェスタで地元企業等と交流



12月2日(土)3日(日)こしがや産業フェスタに出展。共に働くまちづくりを進める上で、とても大事な場と位置付け、14年間参加し続けています。今年も

⑤

1994年8月24日第三種郵便物承認

いくつかのブースを訪ね、情報交換。写真はこしがやエフエムの越野さんほかの皆さん。越野さんには昨年開局直前のお忙しい時に世一緒での画廊喫茶のゲストトークにお出ましました。

●水辺の市の忘年会にぎやかに



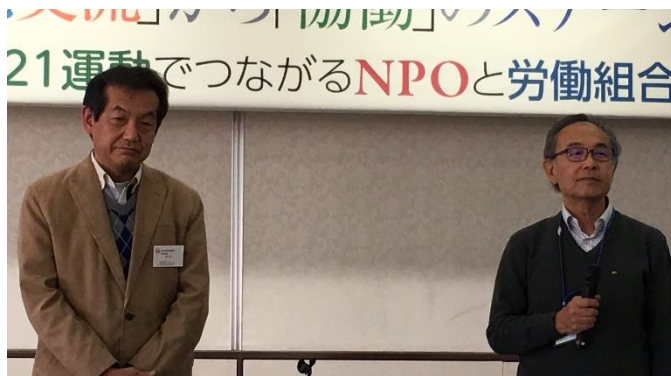
12月5日(水)夜、越谷・水辺の市を主催する越谷にぎわいの会の忘年会が、北越谷のタワーマンション28階で開催されました。毎月第2火曜日、越谷市役所東側の葛西用水ウッドデッキで開かれている市の出店者などが参加。料理は、代表の須長さんらが運営するワーカーズコレクティブ・キッチンとまとから。「地域共生」が叫ばれる今こうした場が問われています。

●うんとこしょ-介護人養成講座でBBQ



12月9日(土)当会と生活クラブ生協、わら細工他で実施している「うんとこしょ-共に生きる介護人養成講座」の12月の企画「みんなで一緒にBBQ」が開催されました。うんとこしょ外出企画で必ず盛り上がるという玉入れゲームは、チーム対抗戦で白熱。その後行われたドレミの歌に沿っての体操遊びは見た目よりかなり難しく、盛り上がりました。

●ネット21シンポで越谷市職と報告



職場・地域ひろがりつうしん

12月9日(土)「シンポジウム&交流会『異文化交流』から『協働』のステージへ ネット21運動でつながるNPOと労働組合」という集まりに参加しました。「ネットワークSAITAMA21運動」(ネット21運動)は、連合埼玉と(一社)埼玉県労働者福祉協議会が推進母体となっています。さいたまNPOセンターからの声かけに応じ、長年にわたる職場参加をすすめる会と越谷市職の協働の経過について、市職委員長の森田さんと事例報告をしました。

●共同連関東ブロック結成会議に参加



共同連関東ブロック結成会議が12月16日、横浜・開港記念会館で開かれました。かつてトムテやパタパタの店を代表して共同連に参加していた野島、樋上、そして当会山下事務局長が参加しました。これを機会に当会として、共同連に入会しました。

共同連関東ブロックの顔ぶれは、ここ何年かの間に見学交流ツアーでお邪魔してきた八王子の結の会、日野のやまぼうし、多摩のあしたや、そしてつい先日うかがった北区のわくわくかん、そして今地元横浜で精神障害当事者のピアスタッフが職員の半数を占めるというシャロームなど。さまざまな人々が共に働く場を増やしてゆくことと地域全体で差別もひくくめて共に働く関係を広げてゆくことを同時にすすめてゆきたいと考えます。

●師走もみんなで一水上公園共同作業



師走の県営しらこぼと水上公園花壇整備作業。先月植えた1880株のパンジー、ビオラに肥料と水をやったり、花がらを摘む。年間を通して、NPO法人障害者の職場参加をすすめる会が公益財団法人埼玉県公園緑地協会から花壇整備を一括受託し、施設や精神科病院デイケアなどに共同作業を呼びかけ実施してきました。もう11年目。この日の反省会では、施設職員から「他の施設の人たちと一緒にやれてるのがすてき」との感想も聞かれました。

福祉・医療の枠をこえたささやかな共同作業の試みから、いろいろな人々が一緒に生きる街のあり方を探り続けています。

●就労移行「せんげん台世一緒」準備中



現在空き店舗を借り、4月開所に向けて準備しています。イオンせんげん台店のすぐ近くです。

○ 2017年度会費納入ありがとうございます

青木繁明、阿久津康仁、朝日雅也、石田貴美子、伊藤峰子、岩崎廣司、内野かず子、宇都木章、延与早紀子、大坂富雄、大野弘幸、大塚眞盛、大政マミ、尾谷英一、黄川田仁志、木下 恭子、癸生川新一、小森陽子、佐藤秀一、佐藤春江、清水泰代、鈴木照和、莊子敏一、高瀬 勇、竹迫和子、田島玄太郎、田中利昌、谷崎恵子、津崎悦子、辻浩司、友堅由紀恵、中山佐和子、贅田俊之、西陰勲、野村康晴、長谷川頭、原和久、原田真弓、樋上秀、日吉孝子、正木敬徳、松田和子、松山美幸、水谷淳子、森田譲二、谷塚祥子、山崎かおる、山崎有子、山崎泰子、山下浩志、山田裕子、吉田久美子、吉原広子、生活支援センター苞、CIL わらじ総合協議会、くらしセンターべしみ、春日部市障害者生活支援センターえん、NPO 法人共に生きる街づくりセンターかがし座、NPO 法人精神障害者の自立生活をすすめる会

○ ご寄附ありがとうございます。

川瀬光子、直井利雪、田島玄太郎、土居幸仁、小倉恵子、水谷淳子、沖山稚子、イオン千間台店、谷塚祥子、莊子敏一、小野達雄、伊藤峰子、上野豪志、田代眞一、栗原彬、山川修、清水泰代、大塚眞盛、鈴木照和、大家けい子、山崎泰子、蓼沼秀雄、くらしセンターべしみ

(以上敬称略)

2018年1月～3月 カレンダー 2018.1.15作成

2018年1月			2018年2月			2018年3月		
日中行事	ほか		日中行事	ほか		日中行事	ほか	
1日 月			1日 木	工事基.	たそがれ	1日 木	工事基.	たそがれ
2日 火			2日 金	せんげん会ミーティング		2日 金		
3日 水			3日 土			3日 土		
4日 木			4日 日			4日 日		
5日 金	世一様新年集結開始		5日 月	ボスティング?		5日 月		
6日 土			6日 火			6日 火		
7日 日			7日 水	当番金曜	たそがれ (関さん かつぼ店番金曜)	7日 水	当番金曜	すいごカフェ (1) かつぼ店番金曜
8日 月			8日 木	工事基.	たそがれ 世一様おキネマ	8日 木	工事基.	たそがれ 世一様おキネマ
9日 火	龍谷水辺の市		9日 金	ボスティング?	ミニTOKO	9日 金		
10日 水	当番金曜	すいごカフェ (大坂 かつぼ店番金曜)	10日 土			10日 土	どうせ一様	
11日 木	地域通夜、草工	たそがれ 世一様おキネマ	11日 日			11日 日		
12日 金		ミニTOKO	12日 月			12日 月		
13日 土			13日 火	龍谷水辺の市		13日 火	龍谷水辺の市	
14日 日			14日 水		すいごカフェ (黒田さん)	14日 水		すいごカフェ (1)
15日 月			15日 木	草工基、社団事務	たそがれ	15日 木	草工基.	たそがれ 社団事務金曜
16日 火		うんどこしお会	16日 金	ボスティング?	SDF学習会	16日 金		
17日 水	環境参加を語る会	Lunch Cafe どうこいしよ (正木さん)	17日 土	どうせ一様		17日 土		
18日 木	地域通夜、草工	たそがれ 社団事務金曜	18日 日			18日 日	つぐみ共生会	こども夢未来フェス
19日 金			19日 月		せんげん会お楽しみ	19日 月		せんげん会お楽しみ
20日 土			20日 火			20日 火		
21日 日			21日 水	環境参加を語る会	Lunch Cafe どうこいしよ (清田さん)	21日 水		
22日 月	水上公園共同作業		22日 木	草工基.	たそがれ	22日 木	草工基.	たそがれ
23日 火		107の会	23日 金	水上公園共同作業		23日 金	せんげん会お楽しみ	
24日 水	ピアサポート研究、すいごカフェ (橋本ミツエさん)		24日 土	うんどこしお会	たそがれ (27日)	24日 土		
25日 木	地域通夜、草工	たそがれ 社団事務金曜	25日 日			25日 日		
26日 金	ボスティング?		26日 月	水上公園予備日	せんげん会お楽しみ	26日 月	水上公園共同作業	
27日 土	協働フェスタ		27日 火			27日 火		
28日 日		だきイタワビ、わべり	28日 水	ピアサポート研究、すいごカフェ (1)		28日 水	環境参加を語る会	せんげん会お楽しみ
29日 月	水上公園予備日					29日 木	草工基.	たそがれ
30日 火						30日 金	水上公園予備日	せんげん会お楽しみ
31日 水	ボスティング?	すいごカフェ (所沢、小野さん)				31日 土		だきイタワビ、わべり

○世一様の活動はいつでも、だれでも参加できます。ただ食事が出る行事(キネマ、ランチカフェ等)のときはあらかじめご連絡ください。
○予定が変更になることがありますので、念のために世一様に電話でご確認ください。

すいごごカフェ 1/17～2/21 1時半のゲスト

Lunch Café どっこいしょ の日は 12:00～ 300円ランチ（コーヒー付）あり



17日（水）

正木敬徳さん

たそがれ世一緒介護人

Lunch Café どっこいしょ

退職後の生活を語る

わらじの会初期にケースワーカーとして重度障害者達との出会いをつなぎ、退職後たそがれ世一緒の介護人として関わる日々の中から。

24日（水）

橋本ミツエさん

橋本克己画伯の母

織子の青春・画伯との暮らし

小学校を卒えてすぐ織物工場に住み込んで厳しい労働をしたことが、いま橋本画伯との暮らしに生きているとしみじみ語る。（手話通訳有）

31日（水）

小野達夫さん

所沢教育と福祉を問い直す会

娘も一緒にこの街で

今も毎日発作のある知的障害の娘さんを、小・中とも近所の学校で共に学ばせ、専門学校へも。制度がさらに人を分ける時代にどう共に生きるのか、自らに問う。

2/7日（水）

巽孝子・優子さん

月刊わらじ編集部

知的障害にも全身性

「さっこさんズルイ」との娘・優子さんの一言から、越谷市に知的障害者介護人派遣事業を制度化させてきた巽孝子さん。ワーコレの店・こぶくろの経緯も含め。

14日（水）

黒田正己さん

世一緒当事者スタッフ

障害者が働くということ

追い詰められた生活の中、母は講演会で知り合った長崎の施設に子を託す。後に地域に戻り就労先で受けた差別。いま露天商手伝い、市民活動、世一緒で動き考える

21日（水）

渡辺新一さん

埼玉トヨペットを退職

Lunch Café どっこいしょ

「輪っふる」という生き方・働き方

「輪っふる」はそれまでの日本にはなかった企業活動、市民活動。初代責任者として社員として、多様な市民活動の調整役として生きた貴重な経験を明かす。

11月のすいごご café

22日《商いを通し見えること》

銀座・和装小物老舗店主 平岩和好さん

第二次世界大戦後、全体的に収入が減って財布のひもが固くなった。この状況は続いてしまっており、このままでは作り手、職人がいなくなってしまう。商売



の方法自体も変えていく必要があり、地方へ販売に行ったりもしてきた。技術は残していきたいけれど成り立たせていくのは難しいもの。日々試行錯誤を繰り返している。平たく言えば“販売”なのだが、中身が本質的に違う。うまく工夫して現代に対応させつつ技術を残していく必要がある。

20代は仕事らしいことはせず、30歳頃になって父親の手伝いを始めた。最近、考える事は「人生の何割かは仕事になる。それが価値のあるものなのか。聖書の中に〈後のものはさきになり、先のものはあとになる〉とあるが、仕事はほんのちよつと動かしても評価されない、ずっと続けても偉いのか?と考える。

「ずっと続けていて飽きないのはいいことなのでしょうけれどね。」とおっしゃっていた。

29日《こんな自立生活もある》

わらじの会代表 藤崎稔さん

18歳の夏、スウェーデン。全介助でモーターボート

を運転し、看護師の妻と暮

らす彼に出会ってからのジ

グザグ、すったもんだの

“藤崎流”自立生活を、社

福つぐみ共生会職員・内藤

純さんとのかけあいによる

トークで伝えた。

ひとり暮らしをしているとリスクがある。

資料集より→

「かいじょがないときは まずは ぱそこんでかいじょしゃさがしをする。テレビのまえにずーとい

て、あさまでくるまいすのときもある。(以下略)」

介助者が来るまでの間、パソコンの前にいれば連絡

ができるが、テレビの前にいるとできない。

しかしそれもいいと思えるというところに、すいご

ごに来ていた人たちは彼の今までの暮らしぶりがで

ると感じた。

12月のすいごご café

6日《若い人たちを育ててきた》

埼玉障害者市民ネットワーク代表 野島久美子さん

県立大の聴講生をやった。段差は用務員さんがスロープ持ってきてくれた。裏返しに置いたので、教えてあげた。

春日部市役所のトイレの開閉がタッチセンサーで不便だったのを何度もつたえ、ボタンに変えてもらえた。

春日部市役所の正面玄関、車いすには段差があつて入れないと伝えるとスロープを作ってもらえた。

等々、様々な地を開拓してきた野島さん。

24歳の時、初めて送迎なしに自分で八潮から草加まで電動車いすで行き、そこから越谷まで電車で行く

1994年8月24日第三種郵便物承認

とした。駅では勇気を出して「すみません、手伝ってください」と声をかけ段差を越えた。

新越谷駅で間違えて降りてしまい、駅員さんに「介助者は?」ときかれ「いない」といったら交番に連れてかれ補導された。

25歳のとき『誰でも使える駅を求める会』として「エレベーターをつくろう!」と歌も作って呼びかけた。生い立ちや今までの経歴、活動を語ってくださった。

13日《職場参加との出会い》

元就労支援センター所長 沖山稚子さん

職場はそれぞれに文化や価値観や独特の価値観をもっている。それを若い時に言葉にできないながら

も体験したということが財産になっている。自身のアルバイト・就職・生い立ちから、自分の経験があるから利用者に助言ができる。と語った沖山さん。

ある人の考え方に触れ、応援しようと思って入っていく職場は、ぎりぎりの環境で働いている人もいるんだなと思いついた。

嫌な人もその理由があるのかもしれないと思うようになった。

職業興味、職業能力、雇われる能力が合ったところがあればいいけれど…エンプロイアビリティ雇われる力が必要だと考えている。

現在は通常とは違う就労支援をもう一度したいという気持ちがまた湧き上がっているという。

20日《私の職場参加前史》

当会代表理事 山崎泰子さん

音大でバイオリンを学び新星日響から誘われ入団。

バイオリンを弾く人の中に赤ちゃんの時に足を火傷

し装具を付け松葉杖で歩く人がいた。

練習が終わると譜面台を自分たちで畳

む時だけ障害者になる彼が許せず、面

と向かってずるいんじゃないのと言っ

た。それから自分で畳むようになった。

それまで特別扱いされてきたのだ

ろう。そういう性格はいまもある。新

星日響はクラシックが市民みんなのものだという考

えで、運営についてもなんでも全体会で決めてい

た。

重度障害の娘の親になり、この人が街にいることを二人で経験していこうと、あっちこっちへ二人で出かけた。

親としての関心は、この子が大人になった時につながる。現在大人の障害者たちがどんな暮らしを

しているか知りたいと思った。その中でふれあいの日実行委員会ではわらじの会とも出会い、段差がどこどこにあるかどうかといった声を聞き、いろんなバリアがあるんだとわかった。

こぼと館で知的障害の人達と音楽活動を始め、ボランティアに沢山の人が来てくれた。その頃「共に働く

街をひらくべんきょう会」の案内がこぼと館に入っていて行くようになった。職場参加って何か人に説明で

きがない、ここでこういうことをして社会に役割を果たしていると思えることかなと。娘も通所施設

で箸を並べるとか、水上公園作業にもこの頃参加させてもらっている。どの人も社会の中で役割を持ち、自

分の音楽も活かせてきて幸せだったなと思っている。

世一緒スタツフ日記

寝正月

癸生川新一

12月くれから、ちようしがわるかったです。12月27日からカゼひいたのでくすりをもって、ねてました。いしやもやすみなのでこまりました。正月は、なにもくわず二日間はねてました。休みは、ながかったです。自分はずかさは、なおりました。つまわがなかならないのでせんたくがこまりました。はやくいしよがあくのがたのしみにしてました。

お正月の介助者さがし

友野日新恵

12月29日から1月4日までかいじよして おべんとう 夕食、にゅうよくのかいじよのやつてくれるひとをおねがいしてやつてもらいました。学生さんがおしよがつつでじつかにえるひとがいたのでおねがいはいつてもらいいました。はいってくれる人ねんまつのかいじよのひとをおねがいしてみつかってよかったです。

久伊豆神社で初詣

佐藤景子

一月一日の初詣、久伊豆神社に行ってお参りしました。けっこう人がたくさんいました。

一人暮らしを始めて

Mariko

昨年の8月8日から一人暮らしを始めました。週に3日ヘルパーさんが入ってくれています。一緒に料理を作ったり掃除したりしてもらっています。ヘルパーさん達はすごくやさしいです。一人暮らししていて眠れない日もあり体調崩してばかりです。病院には定期的に通っています。

頑張って仕事に行っています

加藤雄一郎

今頃は、川口のイトーヨーカドーで仕事をしています。先月は、仕事中にむねのほねをいためてしまいました。そしてまた、今月に入ってから首のしこりのところがいたくなりました。でも、首とむねをいたいのをがまんをして、仕事にがんばって行っています。

年頭において

青木繁明

仕事は昨年は休みがちだったのですが今年は頑張りたいです。でも2日続けて病院予約入ってしまうこともあるのでちくや早退をさせてもらい、会社にはちゃんと行けるようにしたいです。4月から3年目になるので出来る作業を増やしていきたいと思っています。不器用なので、自分のペースで頑張ります。

今年は風邪をひき、スタートは具合が悪かったのですが、三日間位でようやくよくおさまりました。戊年は喜んで動く年にしたと思っています。仕事も順調に動き始めました。例年お金に苦しみましたが、使い方を考えて服装を整えて、旅行を試みたい。金、土、日曜日を利用したい。四月から六月末までに近場でいいので計画を立てて楽しみたい。年を重ねると

就職が決まりました

逆井奈津子

つい忘れがちになるので、要点を絞る余裕を持って行動したい。近年交通事故故でお亡くなりになる人が多いので、一歩一歩周りに気をつけながら、ききとりながら話を進めていきたいですね。近況はスケジュールをもとに、人と人のつながりを大切にしていきたい。「和と笑顔」を全面に、こきみよくすごせるように努力をお願いします。進めていくつもりです。で、よろしく願いいたします。

就職が決まりました。私が憧れていた病院で働くことになりました。すごく嬉しかったです。世一緒でお世話になりました。頃、コミュニケーションも、まともに取れなかった私を、みなさんが支えてくれて、少しずつ周りの人と取れるようになった事を思い出しました。感謝の気持ちでいっぱいです。

ここからがスタートなので、「不安」な気持ちで今いますが、メモを取りながら、精一杯やってみようと思います。

今まで、あきらめないで、頑張ってきたよかったです。これから、何かにつまづいた時、助けを求めてしまいかもしれませんが、よろしくお願いします。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。どうぞ、ご協力をお願いします。

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内 (ハローワーク斜向かい)

048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www5b.biglobe.ne.jp/~yellow/

二〇一八年一月二十四日発行(毎月十二回
一九九四年八月二十四日第三種郵便承認
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会

〒333-0851 川口市芝新町十五-九 アステール藤野1F
二と四と六と八の日) 通巻 第四五七六号

アステール藤野1F